

## メッセージアウトライン

### コリント人への手紙 第二10:1～6 「私たちの戦いの武器」

[1] 「さて、私パウロは、キリストの柔和と寛容をもって、あなたがたにお勧めします。私は、あなたがたの間において、面と向かっているときはおとなしく、離れているあなたがたに対しては強気な者です」

この10章からパウロの手紙の調子がかたがたと変わる。それは今までと違って偽教師やユダヤ教主義者に対しての語りかけになるからである。パウロは厳しいことばを使うが、それは個人的な怒りではなく、コリント教会の危機を憂えた思いから出たものであった。1節ではパウロが偽教師たちからの彼に対する批判のことばをそのまま切り返して用いていると思われる。「キリストの柔和と寛容」とはキリストを模範とする態度のこと。

[2] 「しかし、私は、あなたがたのところに行くときには、私たちを肉に従って歩んでいるかのように考える人々に対して勇敢にふるまおうと思っているその確信によって、強気にふるまうことがなくて済むように願っています」

「肉に従って歩む」とは人間の生まれながらの性質、また、人間的な考えや打算で生きることであり、御霊と対立するもの。しかしパウロには全く当てはまらない。→ガラテヤ2:20 パウロを批判する者たちはキリスト者の信仰の基本もわきまえない者であり、そのような間違った教えを主張する者たちに対して彼は勇敢にふるまおうと思っている。しかし、他の従順なコリント人たちのためにも、いたずらに事を荒立てたくないの、実際そのよう時には強気にふるまうことがなくて済むように願っている。

[3-4] 「私たちは肉にあって歩んではいても、肉に従って戦ってはいません。私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです」

ここで「肉にあって歩む」というのは肉体を持った者として生きているという意味で2節の「肉に従って」とは違う。キリスト者も肉体を持って生きているが、しかし、生まれながらの性質に従って戦っているのではない。キリスト者の人生はこの世を支配し闇の力を持つサタン(悪魔)との戦いである。→コリネ14:30、使徒26:18

この戦いにおいては人間的な賢さや力が勝つのではなく、神の備えてくださる武器のみが勝利を得る。→エペソ6:11-18

[5-6] 「私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ、また、あなたがたの従順が完全になるとき、あらゆる不従順を罰する用意ができています」

パウロはさまざまの思弁、あらゆる高ぶり、すべてのはかりごとを打ち砕き、とりこにしてキリストに服従させると言う。これは神の備えてくださる戦いの武器によってのみなされることである。そして、このようにしてコリント教会の人々の従順が完全になるときに、偽教師や不従順な者たちを罰しようと心に定めている。

パウロをはじめ福音の伝道者、奉仕者は誤解され、批判され、つまずきを与える

ことがあるかもしれないが、実際は肉に従って歩んでいるのではなく、神により頼んでおのが身を打ちたたいて歩んでいるのである。クリスチャン一人一人はそのことを覚え、祈りによって支え、共に重荷を負う心を持つことが大切である。

そして、私たちクリスチャンはすべて信徒も働き人も、肉の力ではなく神の武具を身に着けて悪魔の力と戦い、勝利していかなければならない。